

園名 生駒市立小平尾保育園

はばたくなら⑤

「みんなのまちづくり(製作)」を通して
～お互いを認め合い、主体的に
遊ぶことのできるクラスづくりを目指して～

5歳児

取組について

○「自分の思いを表現し、ともに育ち合える仲間づくりをめざして」を園のテーマとし、職員間の話し合いや全園児についての共通理解を大切にしながら、保育を進めている。その中で出てくる課題として、自信がもてずに、1対1の保育者との関わりの中では表現できても、友達や大人数になると自分の思いや考えを素直に表現しにくい姿、他園や小学校との交流など、大きな集団に入ると萎縮してしまうという姿があり、子ども一人一人が自分のよさを認め、友達と関わりながら主体的に遊ぶことができるために、どのような環境、援助が必要なのかを考えてきた。

○コロナ禍で新しい生活様式を取り入れながらの園生活となり、行事や園外保育など、やりたいけれどやれない、行きたいけれど行けないという状況となった。クラスでは、コロナ対策と保育活動との両立を模索する中で、新たな遊び方や活動を考えてきた。その中の一つに自由製作コーナーがあり、子どもは道具や素材を自由に使って自分の好きなテーマで作品や遊びの道具を作っていた。メリーゴーランドやコーヒーカップ、お化け屋敷など、その作品からは、コロナ禍に於いて子どもが望んできた思いや夢が湧き出し、形になってくることもあった。このような「ものづくり」に落ち着いて取り組める環境を整えると共に、「個人で自由に作ること」の積み重ねと試行錯誤を繰り返しながら、小グループ、そしてクラスでの「協同で作る」ことへと展開していった。

実践事例

ねらい

- 自分で作りたいものをイメージし、素材や道具を選びながら作り上げる喜びを味わう。
- 友達とイメージを共有し、考えたり工夫したりしながら製作を楽しむ。

自由製作コーナーをつくる



子どもが自由遊びの中で思い思いに作っている。



きょうはなにをつくる?

きめつのかたなをつかったよ

パワーショベルだよ

『さくら工場』のりが乾くまで吊り下げたり、遊びの途中のものを置くスペース



コロナ禍で遠足なども中止となったあと、友達と一緒にメリーゴーランドやお化け屋敷をつくる子ども。



いけないならつくったらいい



作りたいけれど、思うようにいかないもどかしい気持ち



素材や道具は拡充され、子どもの作りたい意欲も高まってきた。

一方で、子どもが表現しきれず、頓挫してしまう状況も見られるようになった。

うまくいかない理由を探り、改善を

技術の不足

作りたいイメージの形が切れず、材料の残骸だけを残し頓挫してしまう

・道具の扱いに慣れていない
・有効な使い方を知らない

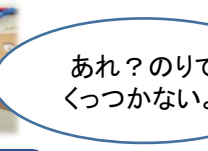


あれ? ぜんぜんきれないぞ

素材のミスマッチ

うまく素材を接合できない

接合する道具が素材に合っていない



あれ? のりでくっつかないよ

道具のミスマッチ

思うように遊びが進まない

道具が活動内容に合っていない



あれ? うまくかけないぞ?

子どもの言葉

子どもの姿

環境

考察

みんなが「できた！」の経験を

ハサミなどの道具の扱いに慣れることで、安全に使用できることはもちろんのこと、「イメージ通りに切り抜く」、「異なった材質のものを切る」ことができるようになる。

道具のスキルアップ

うまくカーブをまがれたよ



かたいなはさきじゃきれないぞ



あっ、ねもとで
きればいいんだ

素材と道具の特性を知ろう



あ、ポントだとくっついた💡

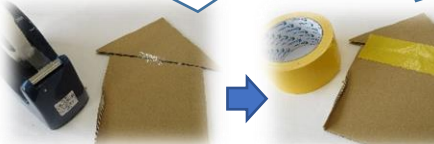
あれ？
のりではくっつかない



セロハンテープ
だとぐらぐらするね

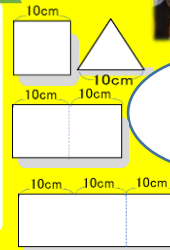
ガムテープなら
しっかりくっついた💡

培った
スキルで
挑戦



みんなのおうちづくり

ブロックや積み木のように、どのように組み上げても形になるよう「10cmX10cm」のダンボール片を基準にした素材をブロックのように組み上げて立体にしていく。



3Fの
おうちが
できたぞ



製作チームごとに、小さな集落

製作スペースが狭くなったためリズム室へ移動。自分達で道具の共有や管理ができるように、3チーム(3テーブル)に分かれ各チームごとに相談しながら模造紙で家を置く土地スペースを作っていた。



家は、やがて大きな街に

チームの子ども同士
で話し合って小さな町
が始められる



はしで
つなげよう

せんろ
つくる

きったから
はって

やがてそれが橋などでつなげられて大きな街へと変わっていった。



街も、気持ちもつながった

(まとめ)

・春に行くことのできなかった遊園地を作って遊ぶこと、夏にお化け屋敷を作って年下の友達を喜ばせること、そして秋に実現した遠足で見た「まち」の様子に興味をもち始めた「みんなのまちづくり」。当初イメージ通りに進まずもどかしさを感じていた製作の経験から、材料や道具の使い方のスキルアップを図り、「表現力の底上げ」という試みを行った。また、作ることに苦手意識のあった子どもも、使用する道具の配慮や、友達からの刺激も受けながら、自ら表現しようとする意欲や力が育ってきた。また、グループでの活動を経験していくことでクラスとしてのチーム力がつき、一人一人の自信にもつながった。

(成果)《まちづくりから》

(自尊感情)

・材料や道具の使い方のスキルアップを通し、製作の完成度が増すことでの達成感を味わうことができた。
・製作活動の中で、友達を手伝ったり、自分の発想やアイデアを認め合ったりする中で、友達から必要とされる喜びを感じる事ができた。

(規範意識)

・グループでの製作を通し、イメージや目的を友達と共有して進めた活動から、「みんなで作った」という認識を強くもつことができた。
・友達とのつながりが広がり、お互いの街を橋でつなげるという姿から、心の育ちを感じた。

・道具の安全な使い方や材料を共有して無駄にしない方法を考えることができた。

(学習意欲)

・規格単位の段ボールを組み合わせることで必ず形になる面白さ、満足感を味わうことができ、もっと作りたいという意欲につながった。
・自分の家づくりから始まり、近くの友達同士で集落ができ、やがて大きな街へ・・・でき上がっていく様子を見ながら、さらに考え、作り足していく。そういう遊びの過程で子どもの自主性や意欲が見られた。

(課題)

・今後も子どもが自ら「やってみたい」と思い、遊びを楽しむことのできる環境づくりや援助方法について職員間で話し合い、学びを深めていきたい。
・本来、親や兄弟の模倣をする中から自然に学んできた製作スキルの習得が、長時間保育の子どもが増え、難しくなっている。そこを園が補完し、担ってきたい。
・コロナ禍においても大切にしていることはしっかりと発信し、保護者と共に子どもの自尊感情を高めていきたい。